

本年度最後のREADです。

☆READ 2020☆第9弾

先生方によるおススメ本紹介企画



「物語オーストリアの歴史」

山之内克子/著・(株)中央公論新社/発行(新書版)

中公新書の「物語〇〇の歴史」シリーズ。世界各国・地域の歴史について30冊以上発刊しているうちの一冊。中規模国家ながらベンチャー精神にあふれた対外政策。さらにアジア系移民が暮らす多文化社会は、かつての白豪主義から180度の転換。新しい国家像の核心に迫る。



高校3年C組担任・地歴 伊藤司

「勝つ人のメンタル」

大儀見浩介/著・(株)日本経済新聞出版社/発行

サッカーを通じて関わりを持った人。心に響いた一冊。勝つ人と勝てない人の差を明確化し、メンタルトレーニングの在り方を伝えている。特に、目標設定が下手な人、計画が継続できない人。是非、この本を読んでほしい。



高校3年H組担任・数学 高木優一郎

「U理論 (エッセンシャル版)」

C・オッター・シャーマー/著・英治出版(株)/発行

周囲の人と協力しながら、新しいことに取り組むのは、とてもハードルが高いかもしれませんが、その一歩を踏み出すための方法や考え方について書かれています。難しい内容ですが、自分なりの問題意識を持って行動しようとしている人にお勧めの一冊です。



高校3年D組担任・理科 曾田泰宏

「理系女子的生き方のススメ」

美馬のゆり/著・(株)岩波書店/発行(新書版)

この本でいうリケジョとは、「性別に関係なく自分のやりたいことを見つけて、周りを巻き込みながら楽しく生きる人」を指します。著者が感じた「女だから」という枠の窮屈さ、はみ出た自分を受け入れる難しさ、そしてそれを超えた先の未来について書かれています。



高校3年G・H組副担任・理科 山本華織

「ゾウの時間 ネズミの時間 サイズの生物学」

本川達雄/著・(株)中央公論新社/発行(新書版)

大きい動物と小さな生き物では、1日という時間をどんな風に感じているのでしょうか?そんな疑問を考えながらサイズという切り口からとても易しい言葉で生物学を考えていきます。中学生でも、読めばきっと高校の生物の授業が楽しみになります。たまにはこういう新書を読んでみよう。



高校3年E組担任・英語 廣野翔平

「孤塁～双葉郡消防士たちの3・11」

吉田千亜/著・(株)岩波書店/発行

「きっと特攻隊はこうだったのだろうと思った」
2011年3月16日午前6時、福島第一原発4号機で火災発生。連絡が双葉消防本部に入った。出動命令を受けた消防士たちは「もし俺が帰って来なかったら…」と仲間にも声をかけ、雪の降る中を出発していった。



社会科講師・石塚誠

「イシューからはじめよ」

安宅和人/著・英治出版(株)/発行

効率と効果を爆上げしたい君たちへ!勉強・部活が充実している人とそうでない人。その違いは「問題の見極め方」。テストで100点取るより、どの教科にどれだけ取り組むべきかの課題設定(issue)が断然大事!何でも上手くこなせる人の問題解決の流れを学べる一冊です。



高校3年F組担任 兼 地歴科主任・地歴 神崎聡

「わたしを離さないで」

カズオ・イシグロ/著・(株)早川書房/発行

作者は2017年、ノーベル文学賞を受賞した長崎県出身の英国作家。閉鎖された世界でクローンとして(臓器提供のために)育てられる少年・少女たち。自分の将来を知った彼らの葛藤と絶望と不思議な穏やかさ。やや長い作品だが、小説とは何かを教えられる。



国語科講師・星野光徳

「夏の闇」

開口健/著・(株)新潮社/発行

「その頃も旅をしていた」から始まる1人称小説。主人公はベトナム戦争で傷つき、ひたすら眠り、貧欲に食い、性に溺れる退廃の日々を送るが、ある朝、女と別れベトナムの戦場に回帰する。全編文学臭さが漂う、あらゆる描写が最高に素敵な、大人の男のための小説。



高校3年G組担任・英語 廣瀬仁士

「劇場」

又吉直樹/著・(株)新潮社/発行

演劇で成功することを夢見るダメ男と、それを支える天使のような優しい女性のお話。主人公の泥臭くてダメな感じが、著者の美しい言葉で描かれています。恰好をつけながらも、がむしゃらにもがく主人公の姿が共感できるおススメの一冊。



理科講師・村岡希美